

CVポートシステム： 血栓形成後、カテーテル断裂を来した1例

坂本学映 水沼仁孝 和田慎司* 藤塚進司 服部貴行**

那須赤十字病院放射線科

聖マリアンナ医科大学放射線医学講座*

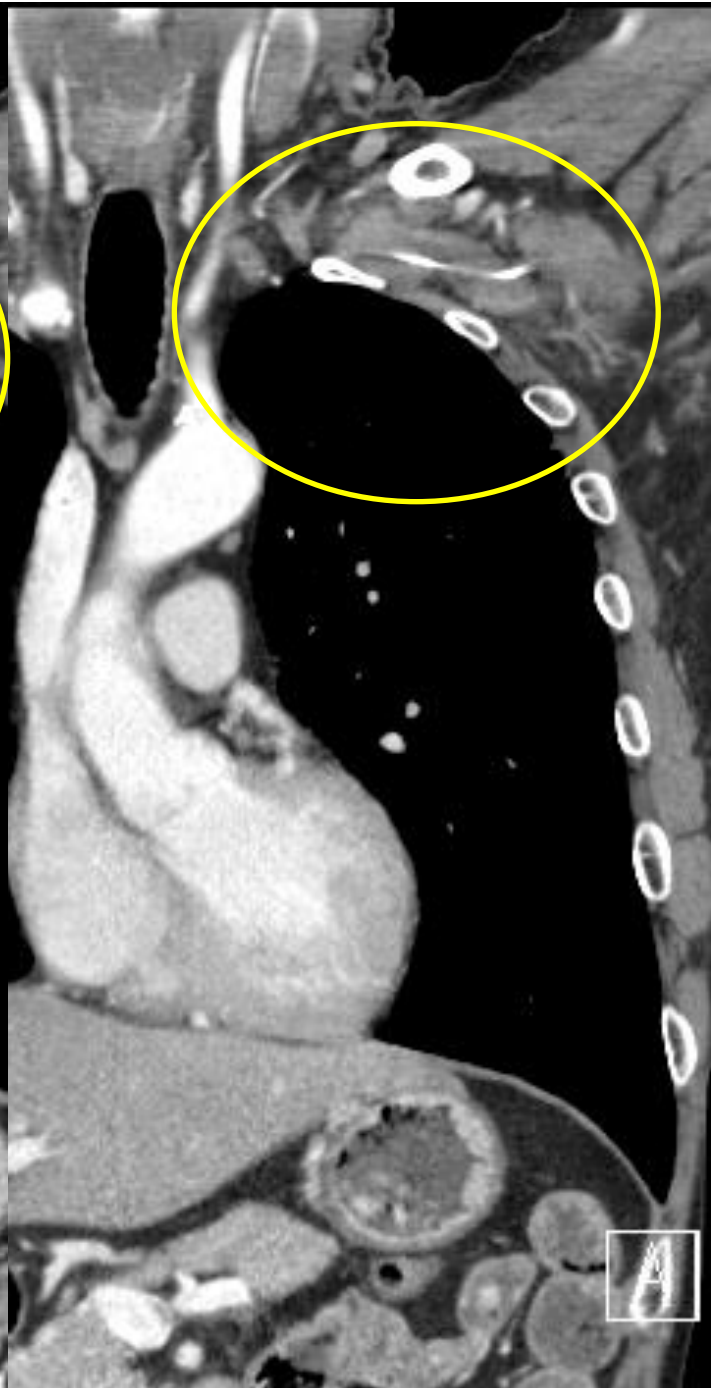
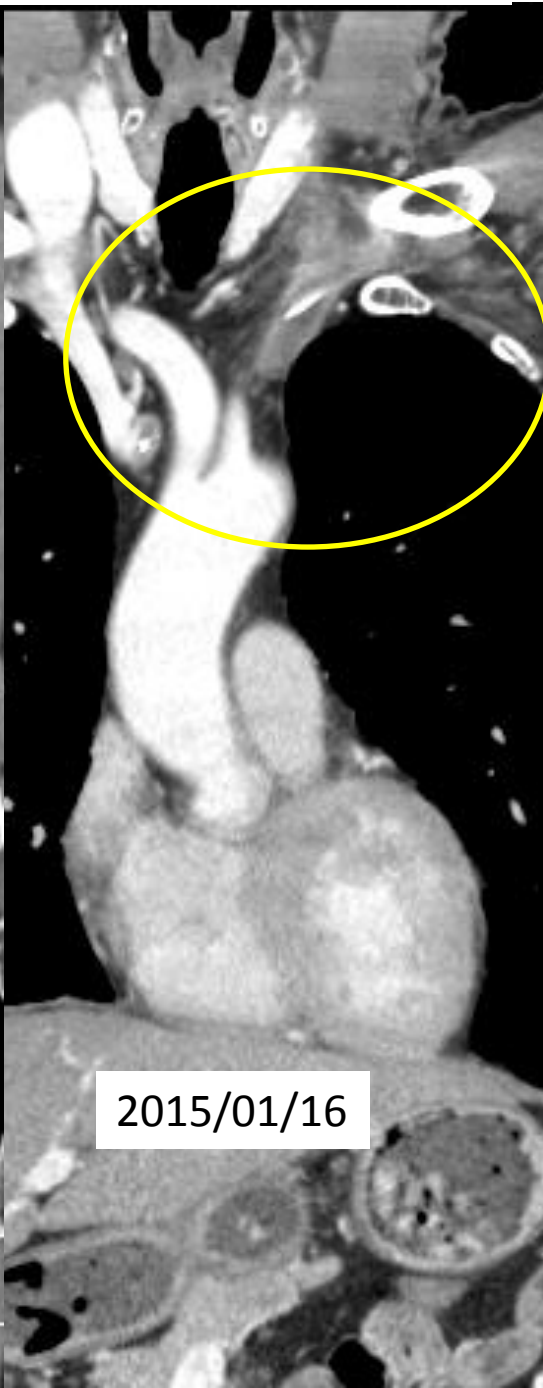
東京都保険医療公社大久保病院放射線科**

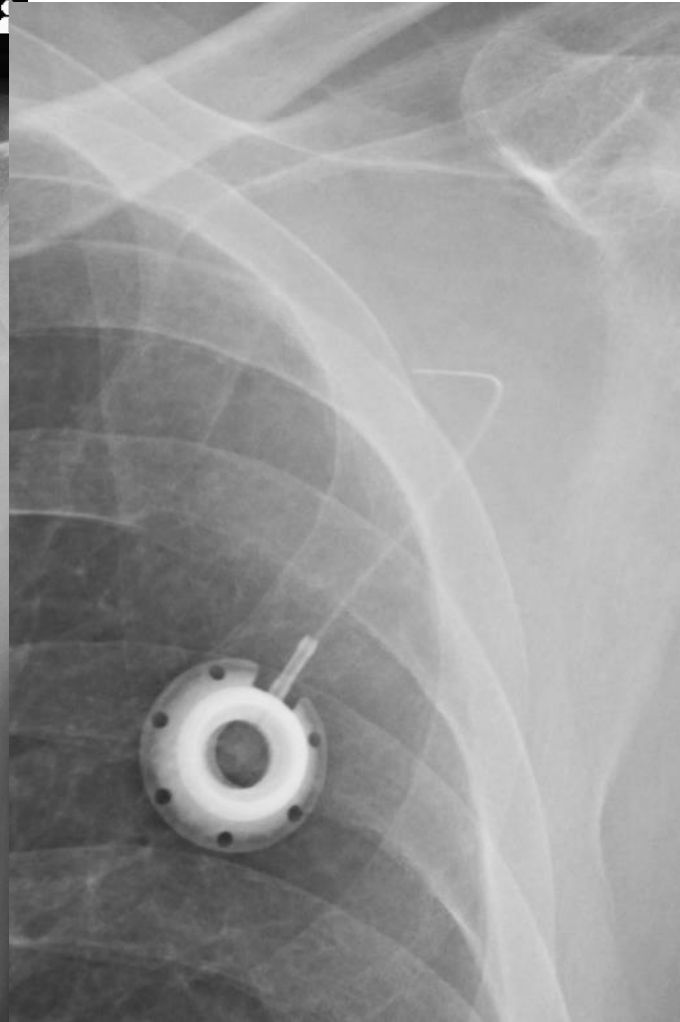
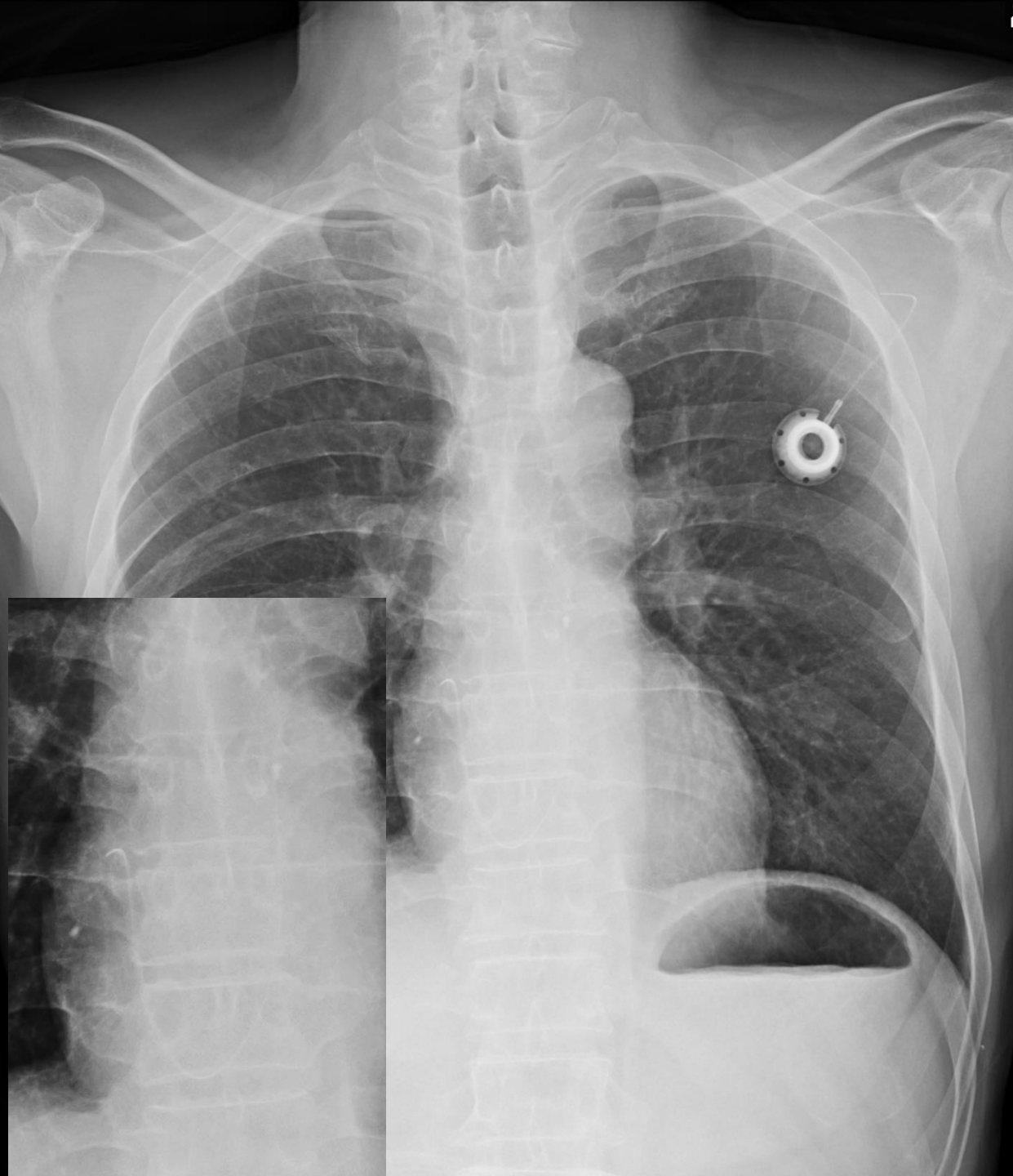
経緯:

- 2013年
 - 6月11日 進行性直腸癌、腸閉塞に対して横行結腸双肛式人工肛門造設
 - 6月24日 CVポート造設。外来通院にて、化学療法施行。
- 2015年
 - 1月7日 CVポートの部分を打撲。
 - 1月8日 CVポート使用。滴下は良好。
 - 1月16日 CTにて左内頸、左鎖骨下静脈に血栓疑い。この時点で断裂なし。
 - 1月22日 CVポート、腕の向きによって滴下不良。それ以外症状なし。
 - その後、血栓に対してワーファリン内服
 - 2月3日 CVポート抜去を予定。
 - 1月26日 撮影された胸部単純写真にて断裂あり。
 - 2月3日 CVポート抜去の際に断裂に気づく。



2013/06/24





2015/01/26

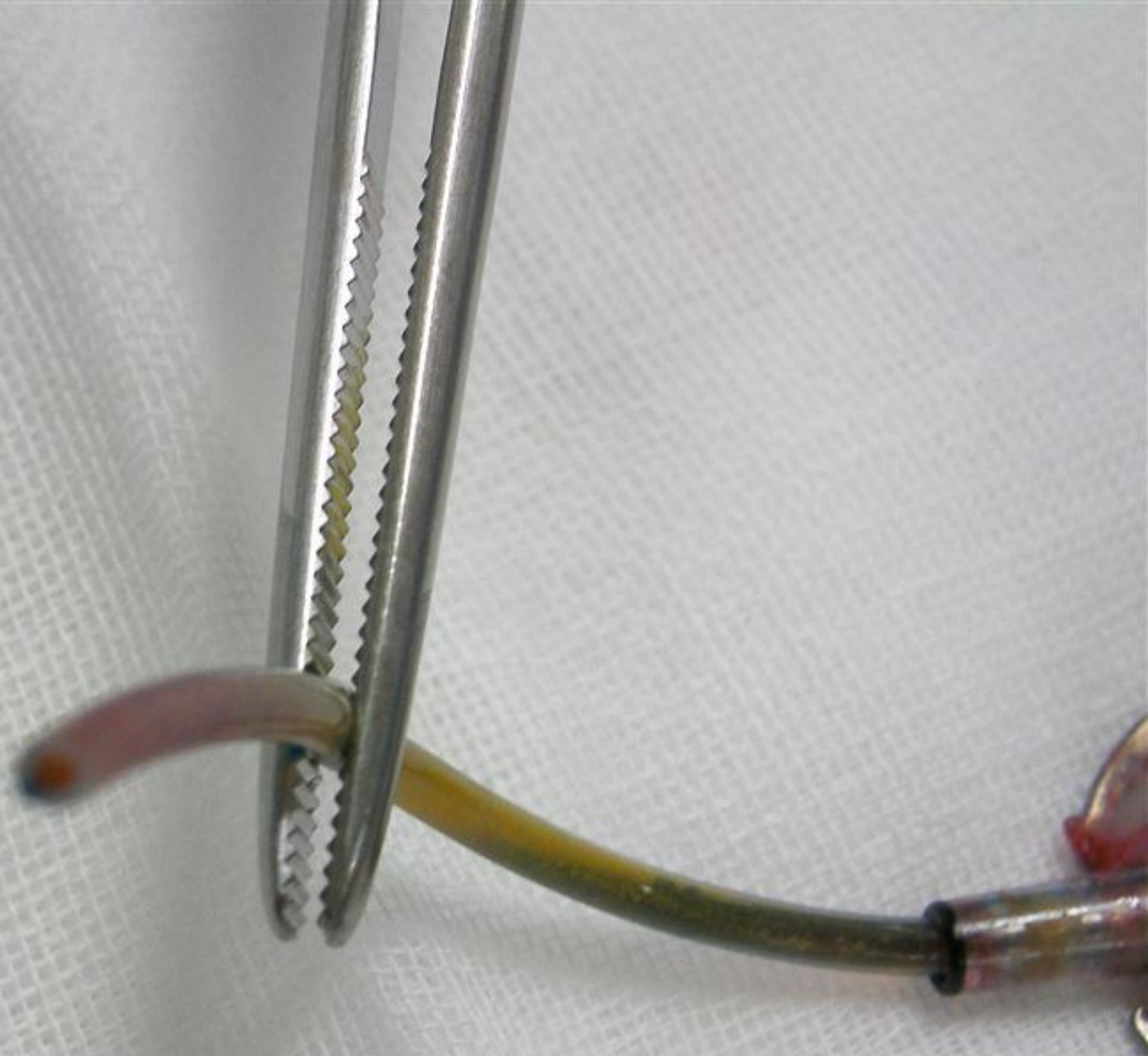




mm 30 60 90 120 150 180 210 240 270

LeMaitre Stent Guide





考察:

- カテーテル断裂でよく知られているのはピンチオフ現象（第一肋骨と鎖骨に間に挟まれ、閉塞及び損傷を引き起こす）
- 本症例の場合、穿刺の位置からはこれに当たらない。
- 医中誌にて検索出来た範囲内でグローションカテーテルの断裂は設置後、平均4ヶ月と比較的早期に発生しており、挿入に伴う合併症が疑われる。しかし、本例では18ヶ月後の発生であり、さらに血栓閉塞が先行している。

- 医中誌で検索出来た同カテーテルの閉塞は平均13ヶ月であり、本例における発生もこれに準じている。但し、閉塞にカテーテル断裂を伴った症例はなく、今回、報告した。

